

病理剖検数向上に向けた 九州医療センターの取り組み

延命吉世子¹⁾† 岡田 靖¹⁾²⁾ 桃崎 征也¹⁾³⁾ 末松 栄一¹⁾⁴⁾ 岩崎 浩己¹⁾⁵⁾

IRYO Vol. 74 No. 10 (419–423) 2020

要 旨

国立病院機構九州医療センター（当院）は1994年開設時より臨床研修のモデル施設として医師の卒前教育・卒後臨床研修を担っており、2015年には総合入院体制加算施設、2016年には救命救急センターに指定された。当院の剖検率は開院時から3年間は20%台であったが、ここ10年は8%以下、2016年度は2%と過去最低であり、日本内科学会認定教育施設要件を満たせないことが懸念された。そこで2017年度後半から情報共有、臨床病理検討会の活性化、診療録活用に取り組み、病院全体として解決するための取り組みを行った。その結果、2017年度7%、2018年度5%と剖検率が向上した。総合入院体制を有する新専門医制度研修基幹施設では教育部門、診療部門、臨床研究部門など関係部門が一体となって剖検関連活動に取り組みることが重要である。研修医・内科専門医を目指す専攻医に剖検の機会を提供することでより深い病態の理解を促し、ひいては医療の質を高めることに貢献するものと考えられる。

キーワード 剖検率, 剖検数, 日本内科学会認定教育施設, 新専門医制度研修基幹施設, 総合入院体制

はじめに

国立病院機構九州医療センター（当院）は救急科、病理診断科を含め43診療科を有し、病床数702床、286名の医師を含む1,400名を超える職員が在籍している。日本内科学会認定教育施設であり毎年1年次

研修医、2年次研修医をそれぞれ30名前後が在籍している。その認定基準には内科剖検体数が10体以上あること、臨床病理検討会（Clinico-pathological conference；CPC）が年5症例以上定期的に開催されていることと明記されており、CPCレポート作成が研修修了の要件と定められている。加えて2017年

国立病院機構九州医療センター 1) 臨床研究センター, 2) 脳血管・神経内科, 3) 病理診断科, 4) 膠原病内科, 5) 血液内科 †事務

著者連絡先: 延命吉世子, 国立病院機構九州医療センター 臨床研究センター 事務局
〒810-8563 福岡県福岡市中央区地行浜1-8-1

e-mail: emmei.kiyoko.rh@mail.hosp.go.jp

(2019年11月11日受付, 2020年6月12日受理)

Efforts for Autopsy Increment at NHO Kyushu Medical Center

Kiyoko Emmei¹⁾, Yasushi Okada¹⁾²⁾, Seiya Momosaki¹⁾³⁾, Eiichi Suematsu¹⁾⁴⁾ and Hiromi Iwasaki¹⁾⁵⁾, 1) Clinical Research Institute, NHO Kyushu Medical Center, 2) Department of Cerebrovascular Neurology, NHO Kyushu Medical Center, 3) Department of Pathology, NHO Kyushu Medical Center, 4) Department of Collagen Disease, NHO Kyushu Medical Center, 5) Department of Hematology, NHO Kyushu Medical Center

(Received Nov. 11, 2019, Accepted Jun. 12, 2020)

Key Words: autopsy rate, the number of autopsy specimens, Certified Educational Facility of the Japanese Society of Internal Medicine, New Specialist System Training Core Facility, comprehensive hospitalization system